



## 臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報は厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### **【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】**

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名：臨床研修部 鈴木 喬

### **【研究責任者】**

聖路加国際病院 臨床研修部 鈴木 喬

### **【指導医】**

聖路加国際病院 腎臓内科 藤丸 拓也

# 血液透析をされている方を対象とした

## 脳梗塞の予防に関する研究

### 1.研究の対象

2011年1月1日から2022年12月31日までに脳梗塞または一過性虚血発作(TIA)を発症した、心房細動と脳梗塞またはTIAの既往のある血液維持透析を行われている方。

### 2.研究の目的・方法

心房細動は脳梗塞発症の危険因子として知られ、脳梗塞発症リスクスコアであるCHADS2スコアに従って予防的抗凝固療法を行うことが推奨されています。しかし、血液透析を受けている慢性腎臓病の患者さんは、一般の方に比べて心房細動や脳梗塞発症のリスクが高いため、本邦では出血等のリスクが高まるとの理由で予防的抗凝固療法が行われないことが多いです。一方で、心房細動を有する患者さんが一度脳梗塞を発症されると、再度脳梗塞を発症するリスクがさらに高くなることが知られており2次予防が推奨されています。抗凝固療法を行っていない心房細動を有する血液透析患者さんが新たに脳梗塞を発症した場合も、脳梗塞再発のリスクを考慮して抗凝固療法を行うことに関しては議論の余地がありますが、過去にこのような状況下における2次予防的抗凝固療法の有用性や予後に関する報告がないため、今回抗凝固療法を行うことが脳梗塞を発症した心房細動を有する血液透析患者さんの予後が改善するか検討することとしました。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長による実施許可後～2024年3月31日までの予定です。該当データの利用開始は、2023年8月7日を予定しております。

### 3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 病歴、内服歴、既往歴、内服薬、カルテ番号、年齢、血液検査、心電図、CT検査、浄化部内視鏡検査 等